

事業の概況

■企業のIT投資需要は堅調に推移

当第2四半期連結累計期間（2021年1月1日～2021年6月30日）におけるわが国経済は、緊急事態宣言の再発令とまん延防止等重点措置の適用により、引き続き経済活動が制約を受けるなど厳しい環境が続きました。

一方、国内景気の先行きが不透明な中、IT投資分野では一部に慎重な姿勢も見られましたが、社会全体のデジタル化への対応が重要テーマとして取り上げられ、企業の生産性向上、競争力強化やコスト削減を目的としたIT投資需要は堅調に推移しました。

■オンラインと訪問でお客様との接点を確保

以上のような環境において当社グループは、「DXとドキュメントソリューションでお客様に寄り添い、お客様と共に成長する」を2021年度のスローガンに掲げ、オンラインによるミーティングやデモンストレーション・セミナー等を活用し、加えて感染の予防に配慮しながらの訪問活動も組み合わせることでお客様との接点を確保しました。その上で、実践ソリューションフェアにおいて関心が高かった「実践DXオフィス」を本社ビルに再現し、DX推進に関する課題やニーズの気づきの場を提供すると共に、営業活動においてはオフィスにおけるデジタル化への移行に向け具体的で分かりやすい提案を心掛け、ドキュメントの電子化や契約の電子化の需要の掘り起こしに努めました。

緊急事態宣言の再発令
社会全体のデジタル化への対応

ドキュメントや契約の電子化需要
テレワーク導入後の継続支援

また、昨年テレワーク導入をお手伝いしたお客様に対しては、さらなる業務効率化や新たな課題に対し継続した支援を行いました。

■増収増益、売上高及び純利益は過去最高

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上企業数を前年同期間に比べ伸ばし、売上高は4,666億25百万円(前年同期比7.8%増)となりました。利益につきましては、営業利益332億46百万円(前年同期比9.7%増)、経常利益342億45百万円(前年同期比10.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益236億57百万円(前年同期比13.8%増)となり、売上高及び親会社株主に帰属する四半期純利益は、同連結累計期間で過去最高とすることができました。

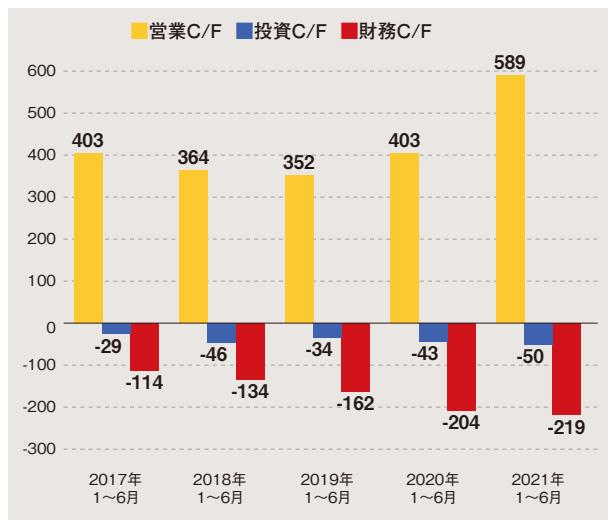
(単位：百万円)

	2020年1～6月	2021年1～6月	
	金額	金額	増減率
売上高	432,943	466,625	+7.8%
営業利益	30,310	33,246	+9.7%
経常利益	30,963	34,245	+10.6%
純利益*	20,789	23,657	+13.8%

※親会社株主に帰属する純利益

■キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)



営業活動から得られた資金は「仕入債務の増減額」が増加に転じたことなどにより、前年同期に比べ185億76百万円増加し、589億38百万円となりました。

投資活動に使用した資金は「有形固定資産の取得による支出」が増加したことなどにより、前年同期に比べ7億44百万円増加し、50億64百万円となりました。

財務活動に使用した資金は「配当金の支払額」が増加したことなどにより、前年同期に比べ14億70百万円増加し、219億52百万円となりました。

四半期別の概況

■売上高の推移

売上高は、第1四半期(1～3月)、第2四半期(4～6月)ともに増収となりました。

第1四半期(1～3月)売上高は、2,393億50百万円(前年同期比 6.7%増)、第2四半期(4～6月)売上高は、2,272億74百万円(前年同期比 8.9%増)となりました。

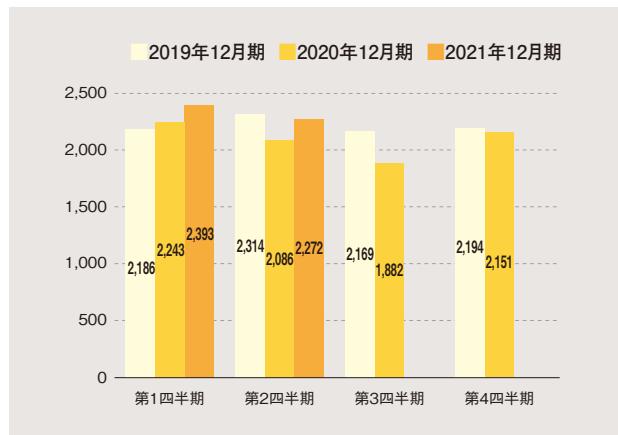
■経常利益の推移

経常利益も、第1四半期(1～3月)、第2四半期(4～6月)ともに増益となりました。

第1四半期(1～3月)経常利益は、172億38百万円(前年同期比 4.6%増)、第2四半期(4～6月)経常利益は、170億7百万円(前年同期比 17.5%増)となりました。

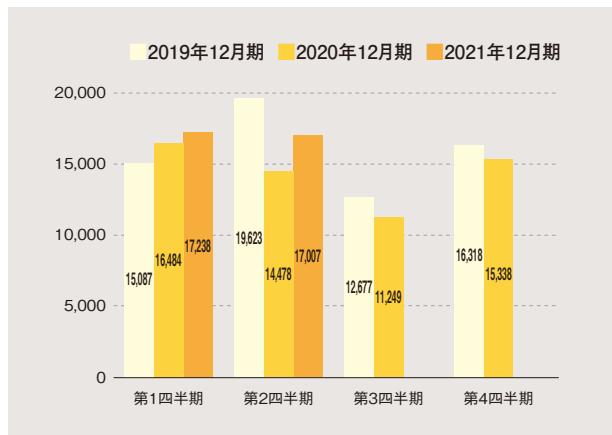
売上高の四半期推移

(単位：億円)



経常利益の四半期推移

(単位：百万円)



事業セグメント別の概況

■システムインテグレーション事業

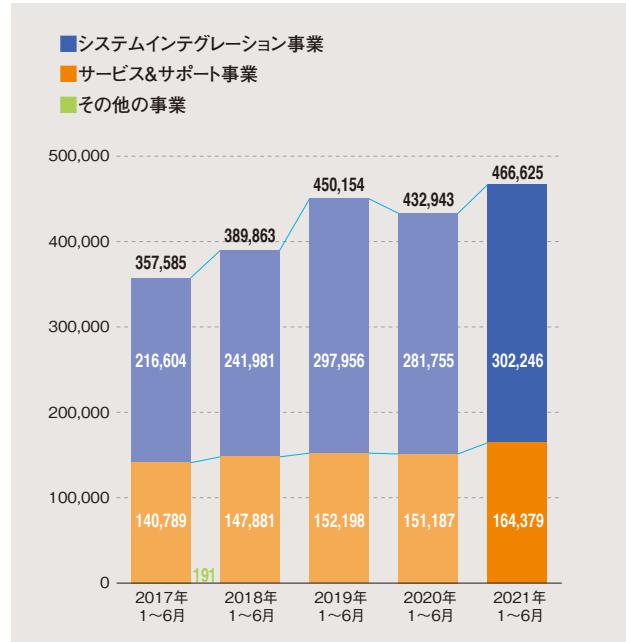
コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、3月の期末需要を捉えたパソコンやタブレットの販売台数に加え、パッケージソフトの売上高を伸ばし、売上高は3,022億46百万円(前年同期比7.3%増)となりました。

■サービス&サポート事業

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」の売上高を新型コロナウイルスの影響がなかった前々年同期間に比べ着実に伸ばしました。また、サポート事業「たよれーる」については、テレワークに関連するサービスやMNS[※]等の保守サービスが堅調に推移したことで、保守等全体の売上高を伸ばしました。結果、当事業全体の売上高は1,643億79百万円(前年同期比8.7%増)となりました。

事業セグメント別の売上高推移

(単位：百万円)



注:連結子会社でありました大塚オートサービス株式会社は、連結業績への影響度が低下したため、2018年より連結から除外されております。これに伴い、「その他の事業」区分は実績が無くなったため、2018年より記載しておりません。

※MNS=マネージドネットワークサービスのこと。サーバーや通信機器、セキュリティやバックアップといったオフィスのIT環境をお客様に代わってネットワーク越しに運用・管理するサービス。